

第6学年 道徳

第6学年の学習到達目標

- (1) 節度節制を心がけ、希望と勇気を持って努力しようとする態度を養う。
- (2) 互いの信頼と友情を深め、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。
- (3) 自然環境を大切に、生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。
- (4) 集団の中での役割を自覚して責任を果たし、法や社会の約束を守って公共のために役立つように努め、郷土や国を愛し、進んで国際社会に尽くそうとする態度を養う。

第6学年の主な学習内容

学期	主題名	学習のねらい	資料名
前期	将来への希望	将来に対する希望や夢を持ち、それに向かって努力しようとする心情を高める。	神父さまはマスクマン
	役割と責任の自覚	集団の中で責任を持って主体的に自分の役割を果たし、協力して集団の向上に努めようとする態度を養う。	幸せをおくるリーダーに
	身の回りの整理整頓	身の回りを整理整頓し、いつも清潔さを保つとともに、必要なものをすぐ取り出すことのできる態度を養う。	散らかし魔
	家族の一員として	家族の人々を敬愛し、思いやりを持って家族と接していこうとする態度を育てる。	おばあちゃんのさがしもの
	地球を救う	自然の偉大さと人間とのかかわりを知り、自然環境を大切にしようとする態度を養う。	愛華さんからのメッセージ
	ボランティア活動をして	勤労の意義を理解し、社会のために奉仕しようとする態度を養う。	小さい子からもらった幸せ
	国際理解と親善	今、世界で苦しんでいる人たちがたくさんいることを知り、国際親善に進んで努めようとする心情を育てる。	義足の聖火ランナー
	男女の友情と協力	互いに信頼し合って友情を深め、男女相互に理解し、協力する態度を養う。	言葉のおくりもの
	明るく生きる	社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役に立つ心情を育てる	手品師
	尊敬感謝の心	日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることを感謝し、それにこたえようとする心情を育てる。	土石流の中で救われた命
	生命の尊重	生きとし生けるものを慈しみ、かけがえのない生命を大切にしようとする態度を養う。	東京大空襲の中で
	平和と国際親善のために	世界の人々と共存していることを理解し、国際親善に積極的に努めようとする心情を育てる。	白旗の少女
	郷土を愛する	郷土の文化や伝統を育てた先人の努力を知り、郷土のよさを大切にして、郷土を愛する心情を育てる。	白神山地
	礼儀は心のあらわれ	礼儀は心の様子をあらわすことを知り、心のこもった礼儀を大切にして、時と場に応じて礼儀正しく生活しようとする態度を育てる。	江戸しぐさ
	権利と義務	権利と義務の関連を考えるとともに、正しく権利を主張し義務を果たそうとする態度を養う。	自由に使うからには
みんなに奉仕する心	勤労の意義を知り、進んで人のためになる仕事をしようとする心情を育てる	うちらネコの手ボランティア	
役割と責任の自覚	集団の中で責任を持って主体的に自分の役割を自覚し、協力して集団の向上に努めようとする態度を養う。	幸せをおくるリーダーに	
後期	規律ある生活	自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するとともに、規律ある行動をしようとする態度を養う。	修学旅行の夜
	過ちを許す	謙虚な心を持ち、広い心で人の気持ちや立場を重んじ、過ちを許そうとする心情を育てる。	過銀のしょく台
	親友	互いに理解し合い、学び合い、信頼し合って、真の友情を育てていこうとする心情を育てる。	明日香と弥生
	公平な態度	自分の損得にとらわれることなく、だれに対しても公正公平にして、正義の実現に努めようとする態度を養う。	ぼくは後悔しない
	よりよい校風	最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着を持ち、進んでりっぱな学校をつくらうとする態度を養う。	せんぱいの心を受けついで
	生命の尊重	人間や動物の生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする態度を育てる。	命の重みはみな同じ
	率直な反省	日常生活を振り返り、自ら節度を守り節制に心がけようとする態度を養う。	「すんまへん」でいい

気高い心	美しいものに感動する心を育てるとともに、崇高な心を持つようとする心情を育てる。	青の洞門
公德を守る心	社会の一員としての自覚を持って公德を守り、進んでよりよい社会をつくらうとする意欲を高める。	空きかんのゆくえ
人への思いやり	相手の立場に立って考え、誰に対しても温かい心で接しようとする心情を育てる。	車いすでの経験から
目標に向かって	より高い目標に向かって、障害や困難に打ち勝ち、ねばり強くやり通そうとする態度を養う。	夢をつかまえよう
日本人として	過去の日本人の努力を知り、日本人として大切にしたいことを考え、日本人としての自覚を持って国を愛そうとする態度を育てる。	新しい日本に
生きることのすばらしさ	生命のかけがえのなさを自覚するとともに、人間の誕生の喜びや死の重さについて知り、よりよく生きようとする心情を育てる。	お母さんへの手紙
環境と資源を大切に	環境の保全に努めるとともに、自然との調和を図り、自然を愛護する態度を養う。	かけがえのない地球
新しいものを生み出す	進んで新しいものを求め、工夫してよりよい生活をつくり上げようとする意欲を高める。	まんがに命を
親切の温かさ	相手の立場に立って思いやりの心を持ち、親切にしようとする心情を育てる。	心に通じた「どうぞ」のひとつ
人間の力を超えたもの	人間の力を超えた大いなるものに感動する心情を育てる。	葉っぱのフレディー
自分らしさを生かす	自分の個性や長所を知り、これをよりよく伸ばそうとする意欲を高める。	自分への手紙

評価の観点・方法

(1) 共感的な理解から評価，そして指導へ

道徳の時間に関しては、数値などによる評価は行いません。道徳教育における評価は、教師が児童の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し、勇気づける働きをもつものです。児童の道徳性については、常にその実態を把握して指導に努める必要があります。そこで、共感的な理解から評価し、その結果を日々の指導に生かしていきます。

(2) 多面的な評価

評価は、児童との心のつながりを深めるためのものであり、児童の心の動きの変容などを日常生活での観察や話し合い、ワークシート、日記、心のノート、作文など、様々な方法でとらえて評価します。

特色ある学習方法

道徳副読本「道徳 6 明日をめざして」を主に使います。この副読本は、どの児童にも親しみやすい読み物教材です。

「心のノート」は、児童が道徳的価値について自ら考えるきっかけとなり、道徳的価値の大切さに気付き、勇気づけられ、発展させていくことができるものです。児童が、自己の生活や体験を振り返り、自らの心に留めておきたいことを記録することもでき、道徳の学習の日常化を目指しています。

使用教材等

道徳の時間は、資料とのかかわりや教師と児童及び児童相互のかかわりなどを通して、児童自らが自分自身への問いかけを深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていきます。

留意事項

道徳教育の指導内容が児童の日常生活に生かされるよう、学校や地域の活動、文化施設等の行う催しや学習活動、自然体験活動などに参加する機会をつくらせてあげてみてはいかがでしょうか。豊かな体験を通して、児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られると思います。